

令和3年度八万南小学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指数と活動計画	評価			
1 確かな学びとなる授業づくり ・「学ぶ習慣づくり」の育成 ・学力向上に向けた取り組み ・読書活動、保護者による読み聞かせを継続	①子どもが、学ぶ楽しさやわかる喜びを実感し、主体的に学習に取り組むことができる態度を育成する。 (主体的・対話的に学ぶことができる指導方法の工夫) ②「黙って最後まで聞く」等、学習規律のさらなる徹底を図る。 ③家庭学習(家庭との連携)なども含めた「学ぶ習慣づくり」を定着させる。 ④タブレット等を効果的に活用し、子どもの興味・関心を高め、学力向上につなげる。 ⑤読書活動等を通して、感性を磨き、読解力・表現力・創造力を高める。	評価指数 ①自己評価「効果的な資料のデータベース化を行い、全職員で共有をしている。」80%以上 ②自己評価「チャイム着席・授業のチャイムスタートを徹底している。」90%以上 児童アンケート「あなたは、ちゃいむが なたら せきについている。」「わたしは、チャイム着席をしている。」85%以上 ③自己評価「毎日の宿題や自主学習をチェックし、最後まで確認している。」90%以上 児童アンケート「あなたは、しゅくだいをきちんと している。」「わたしは、家庭学習をきちんとしている。」85%以上 ④自己評価「個人学習やグループ学習の場を意図的に設定する等、指導方法の工夫を行っている。」90%以上 児童アンケートにおいて「あなたは、べんきょうが よく わかっている。」「わたしは、授業をよく理解している。」85%以上 ⑤自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」80%以上 児童アンケート「あなたは、ほんをよくよんでいる。」「わたしは、本をよく読んでいる。」70%以上	評価指数の達成度 ①自己評価「効果的な資料のデータベース化を行い、全職員で共有をしている。」80.3% ②自己評価「チャイム着席・授業のチャイムスタートを徹底している。」100% 児童アンケート「あなたは、ちゃいむが なたら せきについている。」「わたしは、チャイム着席をしている。」93.5% ③自己評価「毎日の宿題や自主学習をチェックし、最後まで確認している。」96.2% 児童アンケート「あなたは、しゅくだいをきちんと している。」「わたしは、家庭学習をきちんとしている。」90.1% ④自己評価「個人学習やグループ学習の場を意図的に設定する等、指導方法の工夫を行っている。」96.2% 児童アンケートにおいて「あなたは、べんきょうが よく わかっている。」「わたしは、授業をよく理解している。」83.9% ⑤自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」76.0% 児童アンケート「あなたは、ほんをよくよんでいる。」「わたしは、本をよく読んでいる。」63.5%	総合評定 (評定) B (所見) ・①については、進めていくことができているので、さらに徹底できるようにする。 ・②については、チャイム着席や授業スタートは概ねできているが、学習の準備はできていない児童もいた。 ・③については、家庭学習や宿題について、概ねできているが、より工夫や啓発が必要である。 ・④については、個人学習やグループ学習の場は設定しているが、児童の授業理解に十分につながっていない。また、児童の学力差によって、個別に対応する難しさがある。 ・⑤については、読書時間を確保できたが、読書に抵抗がある児童へ働きかけが必要である。	・タブレット等を活用してくれているのでありがたい。不具合があったり、持ち帰りの大変さもあつたりで、活用に難しい面もあると思うが、今後も、授業等で有効に活用し、子どもたちの学力向上と学習への意欲につなげてほしい。 ・読書について、評価指数の達成度(児童アンケート)は悪くないと思う。やはり今の時代なので、漫画やゲーム等に片寄っているのではないかと。どんな本でもまず読む習慣を付けることが大事だと考える。学校であれば、学級文庫を充実させることで、子どもたちが本を身近に感じることができ、効果があるのではないだろうか。	・各教科、データベース化することを見据えて、教材や資料のデータ化を行い、フォルダの整理をしていく必要がある。 ・タブレットを活用した指導法の研修を行い、効果的な資料のデータベース化を行う。 ・チャイム着席と併せて、学習の準備の指導を行い、学習規律を徹底させる。 ・家庭学習の手引きの内容を見直して活用する。 ・家庭学習の調査を行い、啓発する。 ・教師の指導方法の工夫のために、自己研鑽に努める。(研修・自主的な授業参観等) ・学習の節目ごとに、振り返りの場を設定するとともに、児童の学習の理解度を把握する。 ・「おすすめの本のリスト」を提示し、読書への意欲づけをする。 ・図書室の蔵書の刷新を図ったり、本の配架の仕方を工夫し、魅力ある図書室を目指す。
		活動計画 ①各授業における主体的・対話的な「めあて」等の提示と発問の工夫。 ②チャイム着席と授業のチャイムスタート。 ③家庭学習の手引きを作成し、活用を推進する。 ④各学年における学習課題の精選と効果的な指導法のデータベース化。 ⑤読書活動や読み聞かせの実施。	活動計画の実施状況 ①毎時間「めあて」の提示を行い、児童にとって分かりやすい発問の工夫を心がけた。 ②全体的に毎日の積み重ねによって定着してきている。特に、低学年はテレビ画面のタイマーを活用し、視覚化をすることが効果的であった。 ③家庭学習の手引きの活用については、見直しが必要であるが、自主学習ノートの働きかけを工夫することで自主的な学習意欲が高まってきている。(上手なノートの掲示や文例の提示等) ④授業事例やワークシート等をフォルダに入れて情報の共有化を図った。 ⑤毎週水曜日の朝の活動で、全校読書の時間を設定し、読書時間を確保した。また、低学年では教師による読み聞かせの充実を図ったり、高学年は委員会を中心に、読み聞かせ活動や「読書まつり」の実施をしたりして、全校児童に読書啓発を行った。	(評定) B (所見) ・①については、さらに児童理解を進める。	・保護者アンケート「学校でのお子さんの様子を知っている」が68.4%と低評価である。参観日がほとんどできなかったことも大きな要因の一つではあるが、保護者の方のとらえ方にも個人差があるのではないかと。	・本年度、うまくいった取り組みについては、来年度も継続していきたい。 ・4月5月の学級開きの時に基本的なことの指導を徹底する必要がある。研修をもったり、自主的に先輩の先生に学んだり
2 思いやりの心の育成(人権教育・道徳教育の推進)	①「自信や誇り」をもてるようにする。存在感を実感させる。 ②褒められる場面を家庭の中でも多くできるように保護者へ啓発する。	評価指標 ①自己評価「個々の子どものがんばりを見つけ、ほめている。」90%以上 児童アンケート「せんせいは、がんばったときに ほめてくれる。」「先生は、努力を認めてくれる。」85%以上	評価指数の達成度 ①自己評価「個々の子どものがんばりを見つけ、ほめている。」96.2% 児童アンケート「せんせいは、がんばったときに ほめてくれる。」「先生は、努力を認めてくれる。」90.8%	(評定) B (所見) ・①については、さらに児童理解を進める。	・本年度、うまくいった取り組みについては、来年度も継続していきたい。 ・4月5月の学級開きの時に基本的なことの指導を徹底する必要がある。研修をもったり、自主的に先輩の先生に学んだり	

- ・人権に関わる身近な話題や問題を重視し、自分の問題として取り組む教職員・児童
- ・自尊感情・自己肯定感の育成
- ・「I」(自尊感情)を伸ばし、「We」(仲間作り)を広げる人権感覚の育成

- ③一人一人の子どもたちが、しっかりと自己実現できる集団作り「仲間づくり」を継続的に行う。
- ④「人の話を大切に聴き、人に寄り添い、声をかけることができる。」「常に人へ「ありがとう」という感謝の気持ちを伝える。」「人の長所に目が向けられる。」児童を育成する。
- ⑤「仲間づくり」を重視し、「あいさつ」「清掃活動」「言葉遣い」「人の話を聞く」等「環境」の向上に取り組む。

- ②自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。(学級通信、連絡帳、家庭訪問等)」90%以上
保護者アンケート「学校でのお子さんの様子を知っている。」85%以上
- ③児童アンケート「わたしには何でも話したり相談したりできる友だちがいる」80%以上
- ④-1自己評価「人の話を聞くことを徹底している。」90%以上
児童アンケート「あなたは、ともだちやせんせいの はなしを きいている。」「わたしは、人の話を大切に聞いている。」85%以上
- ④-2自己評価「学級の子どもは、困ったことなど、子ども同士でよく話し合える。」80%以上
- ④-3自己評価「思いやりのある生活の大切さを伝えている。」90%以上
児童アンケート「あなたは、ともだちの よいところを みつけることができる。」「わたしには、がんばったことをみとめてくれる友だちがいる。」85%以上
- ⑤-1自己評価「教師自らが、すすんであいさつをしている。」90%以上
児童アンケート「あなたは、じぶんから あいさつをしている。」「わたしは、心が通うあいさつをしている。」85%以上
- ⑤-2自己評価「教師自らが、教室の整理整頓に気を配り、教室環境の整備に努めている。」90%以上
児童アンケート「あなたは、ねっしんに そうじをしている。」「わたしは、学校を美しくするために、そうじをしている。」85%以上
- ⑤-3自己評価「教師自らが、時と場に合った言葉づかいをしている。」90%以上
児童アンケート「あなたは、よいことばづかいを している。」「わたしは、時と場に合った言葉づかいをしている。」85%以上

活動計画

- ①集団の中で「任せ、褒め、認め」るようにする。帰りの会で、低学年は「ほめシャワー」を、中・高学年は「良いところさがし」をする。
- ②子どものノートや日記、作品等に個別のコメントを書くようにする。
- ③生活チェックシートを行い、日々の生活の中で、自他を大切にできる児童の育成を図る。
- ④教師自らが行ってみせたり、仕方を工夫して教えたりする。

- ②自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。(学年通信、連絡帳、家庭訪問等)」92.3%
保護者アンケート「学校でのお子さんの様子を知っている。」68.4%
- ③児童アンケート「わたしには何でも話したり相談したりできる友だちがいる」91.5%
- ④-1自己評価「人の話を聞くことを徹底している。」88.5%
児童アンケート「あなたは、ともだちやせんせいの はなしを きいている。」「わたしは、人の話を大切に聞いている。」91.8%
- ④-2自己評価「学級の子どもは、困ったことなど、子ども同士でよく話し合える。」88.5%
- ④-3自己評価「思いやりのある生活の大切さを伝えている。」100%
児童アンケート「あなたは、ともだちの よいところを みつけることができる。」「わたしには、がんばったことをみとめてくれる友だちがいる。」88.5%
- ⑤-1自己評価「教師自らが、すすんであいさつをしている。」96.2%
児童アンケート「あなたは、じぶんから あいさつをしている。」「わたしは、心が通うあいさつをしている。」84.1%
- ⑤-2自己評価「教師自らが、教室の整理整頓に気を配り、教室環境の整備に努めている。」88.5%
児童アンケート「あなたは、ねっしんに そうじをしている。」「わたしは、学校を美しくするために、そうじをしている。」89.4%
- ⑤-3自己評価「教師自らが、時と場に合った言葉づかいをしている。」92.3%
児童アンケート「あなたは、よいことばづかいを している。」「わたしは、時と場に合った言葉づかいをしている。」88.3%

活動計画の実施状況

- ①毎日、帰りの会等で、友だちの「よさ」を伝え合うことを続け相互理解に努めた結果、たくさんの友だちの良いところに目を向けられるようになってきた。
- ②連絡帳や電話連絡等をした際には、その子のがんばりや良さを伝えるように心がけた。また、大きな行事の活動を通して感じた成長について、教師が作文帳に必ず児童が前向きに頑張れるようなコメントを書いた。
- ③自他を大切にできる児童の育成を意識しながら、仲間作りができるようにしていた。また、学年に応じて、仲間づくりについての「めあて」もち、「なりたい自分」をめざした目標を設定し行動した。
- ④友だちの話をよく聞き、子どもたち同士で話し合いができるような場を意識的に設定した。また、教師自身が感謝の気持ちを伝えたり、子どもの話は耳を傾けて聞いたりするように心がけた。

・②については、連絡帳や電話連絡等をした際には、その子のがんばりや良さを伝えるように心がけたが、参観日が減り、学校の様子を見る機会が少なかったことが残念だった。また、子どもに学校での様子を伝えさせるために、家庭での会話をすすめる。

・③④については、学年集会で大事な話や交流会を積極的に行い、またブロック人権があったこともあり、仲間作りや児童の相互理解が深まった。

・⑤については、挨拶をする児童は増えたが、誰に対しても挨拶しやすい環境をどうつくっていけばいいか、考える必要がある。また、教室の整理整頓は不十分な学級もあったので、来年度の課題となる。言葉遣いは、教師が率先して取り組めた。

・あいさつはしない子どもは全くしない。声を聞いたこともない子どももいるが、以前に比べたらずるようになってきている。なかなか定着しないが、今後も、学校でも徹底して指導を続けていってもらうしか方法はないように思う。さらに私達大人がお手本となつて、しっかりと子どもに示していかなければならないのではないだろうか。

できる環境を整えていきたい。

- ・挨拶やお礼の言葉の指導は、低学年のうちに定着させたことが現在生きているので、続けていく。
- ・学級や学年の取り組みを伝える機会が少なかったように思うので、学年だより等で改善を図りたい。
- ・委員会活動や学級の係活動等、やりがいのある取り組みを増やし、責任感をもたせて、自尊感情を高めていきたい。

		<p>⑤教師自らが行ってみせたり、仕方を工夫して教えたりする。</p>	<p>⑤あいさつや「言葉づかい」については重点的に指導した。また、教師自らが整理整頓を心がけ、教室の環境を整えた。</p>			
<p>3 健やかな心と体の育成（基本的生活習慣の確立と豊かな体験活動の推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動や外遊びをとおして体力の向上、運動習慣の確立 ・運動のおもしろさを感じる体育授業の工夫 ・家庭と連携した「食育」を推進 ・ふるさとを愛し、郷土を担う人材を育成 ・仲間と協力することの大切さや汗を流して働くことのすばらしさを学び、最後までやり遂げる充実感や達成感を体感。 	<p>①運動に親しむとともに健康の保持推進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p> <p>②「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底、生活習慣の育成を図る。</p> <p>③望ましい勤労観、職業観を身に付け、主体的に進路を選択・決定し、自立していくための素地づくりを行う。</p> <p>④よりよい仲間作りを通して、集団の一員としての自覚や社会性を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価「体育の授業を充実させている。」 90%以上 児童アンケート「たいいくのじゅぎょうはたのしい。」「体育の授業は楽しい。」 80%以上</p> <p>②-1自己評価「早寝・早起き」をするように啓発をしている。90%以上 児童アンケート「あなたは、はやねはやおきをしている。」「わたしは、早寝・早起きをしている。」75%以上</p> <p>②-2自己評価「朝ごはん」を食べるように啓発をしている。90%以上 児童アンケート「あなたは、あさごはんを食べている。」「わたしは、朝ごはんを食べている。」80%以上</p> <p>③-1自己評価「発達段階に応じて、身の回りのことが自分で出来るような場を設定している。」 90%以上 児童アンケート「あなたは、おてつだいをよくしている。」「わたしは、自分のことを自分でしている。」80%以上</p> <p>③-2自己評価「当番や係の仕事等を行う場を設定している。」90%以上 児童アンケート「あなたは、かかりのしごとやきゅうしょくどうばんをきちんとしている。」「わたしは、学校をよくするために、自分からすすんで働いている。」80%以上</p> <p>④自己評価「自分たちの生活を自分たちでよりよくするように伝えている。」90%以上 児童アンケート「あなたは、こまっているともだちがいたらたすけている。」「わたしは、周りの人のために、自分ができることを考え、行動することが出来る。」80%以上</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①自己評価「体育の授業を充実させている。」 92.0% 児童アンケート「たいいくのじゅぎょうはたのしい。」「体育の授業は楽しい。」 93.0%</p> <p>②-1自己評価「早寝・早起き」をするように啓発をしている。73.1% 児童アンケート「あなたは、はやねはやおきをしている。」「わたしは、早寝・早起きをしている。」69.7%</p> <p>②-2自己評価「朝ごはん」を食べるように啓発をしている。76.9% 児童アンケート「あなたは、あさごはんを食べている。」「わたしは、朝ごはんを食べている。」93.3%</p> <p>③-1自己評価「発達段階に応じて、身の回りのことが自分で出来るような場を設定している。」 96.2% 児童アンケート「あなたは、おてつだいをよくしている。」「わたしは、自分のことを自分でしている。」83.6%</p> <p>③-2自己評価「当番や係の仕事等を行う場を設定している。」96.2% 児童アンケート「あなたは、かかりのしごとやきゅうしょくどうばんをきちんとしている。」「わたしは、学校をよくするために、自分からすすんで働いている。」82.7%</p> <p>④自己評価「自分たちの生活を自分たちでよりよくするように伝えている。」100% 児童アンケート「あなたは、こまっているともだちがいたらたすけている。」「わたしは、周りの人のために、自分ができることを考え、行動することが出来る。」80.8%</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①の自己評価の低下については、コロナ禍において、普通通りの授業を実施するのが困難であったことが考えられる。しかし、児童のパーセンテージはあがっており、教師が活動の計画を意識して、授業に取り組んだ結果だと考える。 ・②については、学年だよりなどで、教行書くことや保健のワークをうまく活用していくことで、「体の大切さ」を伝えていきたい。 ・②-2については「朝ごはん」に関する教材が少なかったため自己評価が低かったのではないかと考える。1年を通じて指導を行えるよう食育動画教材や食育タイムなどを定期的に活用していき、児童のパーセンテージの上昇につなげていきたい。 ・③については、評価指標は上回っているものの、前年度より自己評価が下がっていたため、それに伴い児童のアンケートでも下がっていることが分かる。 ・④については、当番や係の仕事に熱心に行う児童が多いが、自ら進んで取り組めるように工夫が必要だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、「わたしたちの体育」を活用し、すべての児童が楽しむことのできる授業を実践していく。コロナ禍における密を避けるための授業実践については、研修等を行ったり、それぞれのアイデア等を共有できるフォルダを作成したりして、引き出しを増やしていく。 ・コロナ禍の影響もあり、活動が制限され十分な活動ができないが、その中でも、できる活動や方法を考え、実施していきたい。また、家庭への啓発をさらに行っていきたい。 ・教師が意識的に場の設定および児童への働きかけを行い、家庭への啓発も行うようにしたい。 	
		<p>活動計画</p> <p>①運動が苦手な児童、そして、すべての児童が体育の授業を楽しむことができるよう、場の設定の工夫やルールの工夫に取り組む。</p> <p>②「早寝・早起き・朝ごはん」を児童のみならず、保護者に対しても、お便りやホームページ、試食会などを活用し、啓発していく。</p> <p>③キャリアパスポートの活用を見据え、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けさせる。</p> <p>④ボランティア活動、地域活動等に継続して参加する機会を作る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①「わたしたちの体育」を活用し、場の設定の工夫を行ったり、ルールの工夫に取り組んだりすることができた。(体育主任)</p> <p>②早寝早起きができていない児童がいるので、指導している。コロナ禍のため、試食会はできなかったが、栄養教諭作成のパワーポイントを視聴し、啓発を行った。また、学年便り等で保護者への啓発も行った。</p> <p>③低学年では、仕事が楽しい発達段階にあるので、しっかりほめたり、他の人や学校のためになっていることを伝えたりして、働くことのよさを実感できるようにした。中学年では、キャリアパスポートを確認し、「なりたい自分」を想像させた。高学年では、各教科の学習の中で、自分を見つめ生き方を考えることのできる工夫をしたり、児童自らが考え行動できる場を設定したりした。</p> <p>④コロナの感染拡大防止のため、十分な活動ができなかった。その中で、文化の森公園の花の苗植えに参加させてもらったり、校内で朝の清掃活動に取り組んだりした。</p>			

<p>4 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの長所の伸長 ・児童理解の推進 ・教職員の研修 ・保護者への啓発、 	<p>①子どもたちが学校で仲間とともに生き生きと楽しく学べるように支援する。</p> <p>②特別支援学級と交流学級との連携を密にして子どもの居場所を確保する。</p> <p>③特別支援教育コーディネーターを中心に校内体制の整備をすすめる</p> <p>④特別支援教育コーディネーターを中心に保護者に啓発する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1自己評価「特別な配慮が必要な子を含め、どの子どもにも、活躍の場を設定している。」90%以上 児童アンケート「がっこうは たのしい。」 「学校は楽しい」80%以上</p> <p>①-2自己評価「個人学習やグループ学習の場を意図的に設定する等、指導方法の工夫を行っている。」90%以上 児童アンケート「べんようが わからないときに、せんせいは おしえてくれる。」「先生は、勉強の分からないところを、分かりやすく教えてくれる。」80%以上</p> <p>②自己評価「特別支援学級と交流学級の担任がお互いの教室に足繁く通い、担任間で連携をとっている。」90%以上 児童アンケート「あなたは、せんせいに たいせつに されている。」「先生は、自分やみんなをクラスの一員として、大切にしてくれる。」80%以上</p> <p>③自己評価「チェックシートや児童観察により支援の必要な子をケース会や教育相談等につないでいる。」90%以上</p> <p>④自己評価「特別な支援を必要とする子の家庭と日常的に連絡をとっている。」90%以上</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1自己評価「特別な配慮が必要な子を含め、どの子どもにも、活躍の場を設定している。」96.2% 児童アンケート「がっこうは たのしい。」 「学校は楽しい」87.0%</p> <p>①-2自己評価「個人学習やグループ学習の場を意図的に設定する等、指導方法の工夫を行っている。」100% 児童アンケート「べんようが わからないときに、せんせいは おしえてくれる。」「先生は、勉強の分からないところを、分かりやすく教えてくれる。」91.4%</p> <p>②自己評価「特別支援学級と交流学級の担任がお互いの教室に足繁く通い、担任間で連携をとっている。」76.9% 児童アンケート「あなたは、せんせいに たいせつに されている。」「先生は、自分やみんなをクラスの一員として、大切にしてくれる。」95.0%</p> <p>③自己評価「チェックシートや児童観察により支援の必要な子をケース会や教育相談等につないでいる。」84.0%</p> <p>④自己評価「特別な支援を必要とする子の家庭と日常的に連絡をとっている。」76.0%</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①については、児童の興味関心を引き出す教材や教具を工夫し、全体学習と個別指導のバランスを考慮し、各自のニーズに合わせた課題を設定し指導した。またT.T指導で担任以外の教員と学習する時間を増やした。楽しいと感じている児童も多いが、思わない児童もあり、配慮が必要。教師の授業の工夫はよく見られる。 ・②については、児童との信頼関係が築けている学級が多く、交流学級と支援学級の担任同士で情報交換し、連携できたところもあるが、十分にできない学年もあった。連携の方法を工夫し、児童の様子を伝え合うとよい。支援を必要とする児童の保護者とも定期的に連携することが効果的である。研修等でも共通理解する。アンケート結果では、児童の意識は高い。引き続き場の設定や指導方法を工夫したい。 ・③については、児童観察、児童理解が不十分な場合もある。学校が楽しいと思える児童が増えており、教師が一人一人に対応し、活躍できる場を設定していることが効果をもたらしている。 ・④については、日常的に連絡を取り、保護者との信頼関係を築く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートなどの活用法の研修を早い時期に行い、スキルを上げつつ、学校全体で共有する必要がある。 ・行事や体験的活動を増やし、どの子も活躍できる場を設定する。 ・タブレットを活用する等、個人学習やグループ学習の場を設定し、指導方法を工夫する。 ・特別支援学級と交流学級の担任間で連携を密にする。学年会に特別支援学級担任が参加し、情報交換する。家庭との連携を深め、信頼関係を築く。 ・道徳や体育では、異学年の児童が協力し合いながら、学習に取り組むことができた。毎時間の振り返りでは、良かった点を中心に一人一人の努力を評価し、やる気を持たせながら、指導を進める。 ・毎日放課後に特別支援学級担任が会議の場をもち、指導に関する振り返りと翌日の指導について詳細に打ち合わせをしてきた。しかし、児童の状況によっては十分に対応できないことも多かった。 ・現状では指導者数の不足で時間割の変更や教室の変更が常態化しており、落ち着いた学習環境が確保できない面もあった。次年度は教室の環境整備とともに、指導者の確保を強く求める必要がある。 ・家庭との連絡では、わたしのくらし等を活用し、児童の成長の様子や支援内容について保護者との連携をさらに深める。
		<p>活動計画</p> <p>①一人一人に合った学習内容や活動方法をうまく組み合わせる</p> <p>②日頃からお互いの学級に出向き、日々の授業で連携を深める。</p> <p>③チェックシートや児童観察により支援の必要な児童をケース会議や教育相談につなげる。</p> <p>④コーディネーター便りや学年便り等でいろいろな情報や相談の場を保護者に知らせる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①座席を配慮し、学習や活動に困っている児童には、迅速な対応ができるようにしている。支援を要する児童への手立てを工夫し、個別指導をしている。授業中は実践できた、放課後の個別指導は下校時刻の制限等の問題があり難しかった。個々の課題や特性に合わせて無理なく取り組める教材を用意し、継続して学習できるようにした。</p> <p>②互いの学級に出向くことは少ないが、細かく情報交換を行うようにした。朝の活動時に交流学級へ行き、友達や先生と挨拶を交わすことで、連帯意識を持たせるようにした。</p> <p>③日々の児童観察や保護者からの要望で、ケース会議を開いたり、教育相談を行ったりした。必要に応じて随時連携し、情報共有を行った。交流学級で学習している支援学級児童の様子について、各担任や専科担当者から伝えてもらい、早期の課題解決を図るとともに、良かった点を具体的に示して褒めるようにした。</p> <p>④保護者から相談があった際、役立つ情報を伝えることができた。個人懇談でも保護者に知らせた。特別支援学級でも関係諸機関からの情報や案内を適宜伝えるとともに、必要に応じた情報を収集して、保護者に提供することができた。</p>		

